

## 参考文献

- 青木ひろみ(1997)「自動詞における〈可能〉の表現形式と意味—コントロール概念と主体の意志性—」『日本語教育』93 pp.97-107 日本語教育学会
- 青木伶子(1977)「使役—自動詞・他動詞との関わりにおいて—」『成蹊国文』10 (須賀一好・早津恵美子編『動詞の自他』(1995,ひつじ書房)に所収 pp.108-121)
- 安達太郎(1997)「「なる」による変化構文の意味と用法」『広島女子大学国際文化学部紀要』4 pp.71-84 広島女子大学
- 天野みどり(1987)「状態変化主体の他動詞文」『国語学』151 pp.1-14 国語学会
- 天野みどり(1991)「経験的間接関与表現—構文間の意味的密接性の違い—」『日本語のヴォイスと他動性』pp.191-210 くろしお出版
- 荒正子(1989)「形容詞の意味的なタイプ」言語学研究会編『ことばの科学 3』pp.147-162 むぎ書房
- 池上嘉彦(1981)『「する」と「なる」の言語学』大修館書店
- 石川守(1988)「目的の「ために」と「ように」,及び既定条件の「たら」,と「て」における自己の意志の問題」『語学研究』54 pp.11-30 拓殖大学語学研究所
- 石川守(1994)「使役形の用法について」『語学研究』75 pp.1-41 拓殖大学語学研究所
- 井島正博(1986)「格文法の再構成」『防衛大学校紀要』52 pp.13-36 防衛大学校
- 井島正博(1988)「動詞の自他と使役との意味分析」『防衛大学校紀要人文科学分冊』56 pp.105-135 防衛大学校
- 井上和子(1976)『変形文法と日本語 上・下』大修館書店
- ウェスリー・ヤコブセン(1989)「他動性とプロトタイプ論」久野暁・柴谷方良編『日本語学の新展開』pp.213-248 くろしお出版
- 江口泰生(1989)「漢語サ変動詞の自他性と態」『奥村三雄教授退官記念国語学論叢』pp.765-784 桜風社

- 江田すみれ(1981)「変化を表す表現のタイ・日両語の比較」『日本語教育』45 pp.159-170  
日本語教育学会
- 奥田靖雄(1983)「「を」格の名詞と動詞とのくみあわせ」言語学研究会編『日本語文法・連語編(資料編)』むぎ書房(『教育国語』12～28(1968～1972)に9回にわけて掲載されたもの)
- 奥津敬一郎(1967)「自動化・他動化および両極化転形—自・他動詞の対応—」『国語学』70  
(須賀一好・早津恵美子編『動詞の自他』(1995, ひつじ書房)に所収 pp.57-81)
- 奥津敬一郎(1983)「変化動詞文における形容詞移動」渡辺実編『副用語の研究』  
pp.317-339 明治書院
- 奥津敬一郎(1978)「「ボクハ ウナギダ」の文法—ダとノー—」くろしお出版
- 影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ書房
- 影山太郎(1996)『動詞意味論』くろしお出版
- 影山太郎編(2001)『日英対照動詞の意味と構文』大修館書店
- 河上誓作外訳(2001)『構文文法論』Adele E.Goldberg *constructions:A Construction Grammar Approach to Argument Structure*.The University of Chicago Press,1995 研究社出版
- 金沢裕之(1997)「助動詞「ない」の連用形中止法について」『日本語科学』1 pp.105-113  
国立国語研究所
- 金熹成(1999)「状態述語文の他動化と使役化—構文の特徴を中心に—」『日本学報』43  
pp.71-83 韓国日本学会
- 金熹成(2000)「状態述語文の他動化と使役化—意味の特徴を中心に—」草薙裕編『現代日本語の語彙・文法』pp.203-224 くろしお出版
- 金熹成(2001)「「動詞+なくする/なくさせる」について—動詞の意志性を中心に—」  
『筑波大学東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究成果報告書 平成12年度IV』pp.291-303 筑波大学東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究組織
- 金熹成(2002)「「動詞+ない」形の他動化と使役化」『国語学会2002年度春季大会要旨集』  
pp.153-160 国語学会
- 金熹成(近刊)「使役を表す「ようにする」「ようにさせる」」『日本語と日本文学』36  
筑波大学国語国文学会
- 金水敏・工藤真由美・沼田善子(2000)『日本語文法2 時・否定と取り立て』岩波書店
- 工藤真由美(1995)『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』

ひつじ書房

- 久野暲(1973)『日本文法研究』大修館書店
- 黒田成幸(1990)「使役の助動詞の自立性について」『文法と意味の間 国広哲弥教授還暦退官記念論文集』pp.93-104 くろしお出版
- 小出慶一(1994)「ヨウニスル形の使役性」『群馬県立女子大学紀要』15 pp.129-140  
群馬県立女子大学
- 小林英樹(1998)「複合による他動化」『国語学』192 pp.1-12 国語学会
- 小矢野哲夫(1979)「現代日本語可能表現の意味と用法(I)」『大阪外国語大学学報』45  
pp.83-98 大阪外国語大学
- 小矢野哲夫(1980)「現代日本語可能表現の意味と用法(II)」『大阪外国語大学学報』48  
pp.19-33 大阪外国語大学
- 小矢野哲夫(1981)「現代日本語可能表現の意味と用法(III)」『大阪外国語大学学報』54  
pp.21-34 大阪外国語大学
- 定延利之(1991)「SASE と間接性」仁田義雄編『日本語のヴォイスと他動性』pp.123-147  
くろしお出版
- 定延利之(2000)『認知言語論』大修館書店
- 佐藤里美(1990)「使役構文(2)ー因果関係を表現するばあいー」言語学研究会編『ことばの科学 4』pp.103-157 むぎ書房
- 佐藤琢三(1998)「自動詞ナルと計算的推論」『国語学』192 pp.13-24 国語学会
- 佐藤琢三(1995)「日本語のヴォイスの体系とプロトタイプ」『日本語と日本文学』21  
pp.1-11 筑波大学国語国文学会
- 佐藤琢三(1999)「ナッテイルによる単純状態の叙述」『言語研究』116 pp.1-21 言語学会
- 佐野由紀子(1998)「程度副詞と主体変化動詞との共起」『日本語科学』3 pp.7-22  
国立国語研究所
- 柴谷方良(1978)『日本語の分析』大修館書店
- 柴谷方良(1982)「ヴォイスー日本語・英語」『講座日本語学 10』pp.256-279 明治書院
- 渋谷勝己(1986)「可能表現の発展・素描」『大阪大学日本学報』5 pp.101-137 大阪大学  
文学部日本学研究室
- 渋谷勝己(1993)「日本語可能表現の諸相と発展」『大阪大学文学部紀要』33-1 大阪大学  
文学部

- 須賀一好(1980)「併存する自動詞・他動詞の意味」『国語学』120 pp.31-41 国語学会
- 須賀一好(1981)「自他違い—自動詞と目的語、そして自他の分類—」『馬淵和夫博士退官記念 国語学論集』大修館書店(須賀一好・早津恵美子編『動詞の自他』(1995, ひつじ書房)に所収 pp.122-136)
- 杉岡洋子(2002)「形容詞から派生する動詞の自他交替をめぐって」伊藤たかね編『文法理論：レキシコンと統語』pp.91-116 東京大学出版会
- 杉本和之(1996)「意志動詞と無意志動詞の研究—その1」『愛媛大学教養部紀要』28-III pp.47-59 愛媛大学
- 杉本武(1986)「第3章格助詞」『いわゆる日本語助詞の研究』pp.227-380 凡人社
- 杉本武(2002)「「ている」形の解釈と動作主性について」『文藝言語研究 言語編』42 pp.37-50 筑波大学文芸・言語学系
- 孫東周(1989)「自動詞の使役文と他動詞文との関係について—主体と動詞の性質の観点から—」『国語学研究』29 pp.35-46 東北大学文学部「国語学研究」刊行会
- 高橋太郎(1985)「現代日本語のヴォイスについて」『日本語学』4-4 pp.4-23 明治書院
- 竹沢幸一・John Whitman(1998)『格と語順と統語構造』研究社出版
- 田山のり子(2000)「複合辞「よくなる」の意味と用法」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』26 pp.69-76 東京外国語大学留学生日本語教育センター
- 角田太作(1991)『世界の言語と日本語』くろしお出版
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版
- 寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 中右実・西村義樹(1998)『構文と事象構造』研究社出版
- 西尾寅弥(1978)「自動詞と他動詞における意味用法の対応について」『国語と国文学』55-5 pp.173-186 東京大学国語国文学会
- 仁田義雄(1982)「再帰動詞、再帰用法—Lexico-Syntaxの姿勢から—」『日本語教育』47 pp.79-90 日本語教育学会
- 仁田義雄(1988)「意志動詞と無意志動詞」『月刊言語』17-5pp.34-37 大修館書店
- 仁田義雄(1991)「ヴォイス的表現と自己制御性」『日本語のヴォイスと他動性』pp.31-57 くろしお出版
- 西尾寅弥(1972)『形容詞の意味・用法の記述的研究』国立国語研究所 秀英出版
- 中右実(1994)『認知意味論』大修館書店

- 中右実・西村義樹(1997)『構文と事象構造』研究社出版
- 永野賢(1969)「ようだー比況<現代語>」松村明編『古典語現代語助詞助動詞詳説』  
pp.312-318 学燈社
- 沼田善子(1989)「日本語動詞 自・他の意味的対応(1) 一多義語における対応の欠落から一」『研究報告集』10 国立国語研究所報告 96 pp.194-215 国立国語研究所
- 野田尚史(1991)「日本語の受動化と使役化の対称性」『文藝言語研究 言語篇』19 pp.31-51  
筑波大学文芸・言語学系
- 野田尚史(1991)「文法的ヴォイスと語彙的ヴォイスの関係」『日本語のヴォイスと他動性』  
pp.211-232 くろしお出版
- 早津恵美子(1987)「対応する他動詞のある自動詞の意味的・統語的特徴」『言語学研究』  
6 pp.79-109 京都大学言語学研究会
- 早津恵美子(1989a)「有対他動詞と無対他動詞の違いについて一意味的な特徴を中心に一」  
『言語研究』95 pp.231-255 言語学会
- 早津恵美子(1989b)「有対他動詞と無対他動詞の意味上の分布」『計量国語学』16-8  
pp.353-364 計量国語学会
- 早津恵美子(1991)「所有者主語の使役について」『日本語学科年報』13. pp.1-25  
東京外国語大学外国語学部 日本語学科研究室
- 早津恵美子(1995)「使役表現における使役対象の表され方と動詞の自他」『日本語の研究  
と教育 窪田富男教授退官記念論文集』pp.138-176 専門教育出版
- 樋口文彦(1996)「形容詞の分類一状態形容詞と質形容詞一」言語学研究会編『ことばの科  
学7』 pp.39-60 むぎ書房
- 前田直子(1994)「「比況」を表わす従属節「～ように」の意味・用法」『東京大学留学生セ  
ンター紀要』4. pp.59-82 東京大学留学生センター
- 前田直子(1992)「「目的」を表す従属節「～するように」の意味・用法一様態用法から結  
果目的用法へ」『日本語教育』79 pp.102-113 日本語教育学会
- 前田直子(1996)「必須成分として機能する「～ように」節の意味・用法一発話・思考の内  
容節の場合を中心に一」『東京大学留学生センター紀要』6 pp.71-93  
東京大学留学生センター
- 益岡隆志(1987)『命題の文法』くろしお出版
- 丸田忠雄・須賀一好(2000)『日英語の自他の交替』ひつじ書房

- 三原健一(1994)『日本語の統語構造 生成文法理論とその応用』松柏社
- 宮地裕(1969)「せる・させる－使役<現代語>」松村明編『現代語・古典語助詞助動詞詳説』 pp.89-96 学燈社
- 宮島達夫(1985)「ドアをあけたが、あかなかった」『計量国語学』 14-8 pp.335-353 計量国語学会
- 宮川繁(1989)「使役形と語彙文門」久野暉・柴谷方良編『日本語学の新展開』 pp.187-211 くろしお出版
- 村木新次郎(1989)「ヴォイス」『講座日本語と日本語教育 4 日本語の文法・文体(上)』 pp.169-200 明治書院
- 村木新二郎(1991a)『日本語動詞の諸相』ひつじ書房
- 村木新二郎(1991b)「ヴォイスのカテゴリーと文構造のレベル」仁田義雄編『日本語のヴォイスと他動性』 pp.1-30 くろしお出版
- 森田良行(1982)『基礎日本語 1』角川書店
- 森田良行(1988)『日本語の類意表現』創拓社
- 森山卓郎(1988)『日本語動詞述語文の研究』明治書院
- 楊凱榮(1985)「「使役表現」について－中国語との対照を通じて－」『日本語学』 4 pp.59-71 明治書院
- 楊凱榮(1986a)「「XガYヲZニスル」構文と「XガYヲZニサセル」構文との異同について－Zが形容詞の場合－」『言語学論叢』 5 pp.17-29 筑波大学一般・応用言語学研究室
- 楊凱榮(1986b)「XガYヲZニスル、構文について－中国語との対照を通じて」『日本語と中国語の対照研究』 11 pp.38-59 日本語と中国語対照研究会
- 鷺尾龍一・三原健一(1997)『ヴォイスとアスペクト』研究社出版
- 鷺尾龍一(1996)「語のタイポロジー」『月刊言語』 11 pp.28-35 大修館書店
- 鷺尾龍一(1997)「比較文法論の試み」『ヴォイスに関する比較言語学的研究』 pp.1-66 三修社
- Dowty, David (1991) "Thematic Proto-roles and Argument Selection." *Language*, 67-3, pp.547-619. The Linguistic of Society of America.

University of Chicago Press.

- Hopper, Paul J and Sandra A.Thompson(1980) "Transitivity in Grammar and Discourse."  
*Language* 56, pp.251-299. The Linguistic Society of America.
- Inoue, Kazuko (1978) "Tough sentences in Japanese." John Hinds and Irwin Howard (ed)  
*Problems in Japanese Syntax and Semantics*, pp.122-154. KAITAKUSHA.
- Kitagawa, Yoshihisa (1994)*Subjects in Japanese and English*. Garland Publishing.
- Kuroda, Shigeyuki(1965) "Causative Forms in Japanese." *Foundations of Language* 1, pp.30-50.  
D.Reidel Pub.Co.
- Kuroda, Shigeyuki(1981) "Some Recent Trends In Syntactic Theory And The Japanese  
Language." *Coyote Papers : Working Papers in Linguistics from A → Z*, pp.103-121  
University of California at San Diego.
- Levin,Beth & Malka Rappaport Hovav(1995)*Unaccusativity:At the Syntax-Lexical Semantics  
Interface*. MIT Press.
- Miyagawa, Shigeru(1999) "Causatives." Tsujimura, Natsuko(ed)*The handbook of Japanese  
Linguistics*, pp.236-267. Blackwell Publishers.
- Shibatani, Masayoshi(1973) "Semantics of Japanese Causativization." *Foundations of Language*  
9 -3, pp.323-373. D.Reidel Pub.Co.
- Shibatani, Masayoshi(1976) "Causativization." M. Shibatani(ed.) *Syntax and Semantics* 5,  
pp.239-294. Academic Press.
- Sugioka, Yoko(2001) "Transitivity Alternations in Deadjectival Verbs." Kazuko Inoue and  
Nobuko Hasegawa(ed)*Linguistics and Interdisciplinary Research. Proceedings of the  
COE International Symposium*,pp.169-187. Kanda University of International Studies.
- Vendler,Zeno(1967)*Linguistics in Philosophy*. Cornell University Press.
- Washio, Ryuichi(1995)*Interpreting Voice -- A case Study in Lexical Semantics*. --  
KAITAKUSHA.

<辞典>

田中春美編(1988)『現代言語学辞典』成美堂

井上和子編(1989)『日本文法小事典』大修館書店